

ソーシャルワークの視点から 「地域日本語教育」を考える

2019年10月13日

文化庁日本語教育大会 第3分科会
地域日本語教育が持つべき関連分野の視座
～多文化共生・ソーシャルワーク・通訳の各分野が期待すること～

門 美由紀

元 公益社団法人埼玉県社会福祉士会
多文化共生ソーシャルワーク委員会 委員長

ソーシャルワーク？

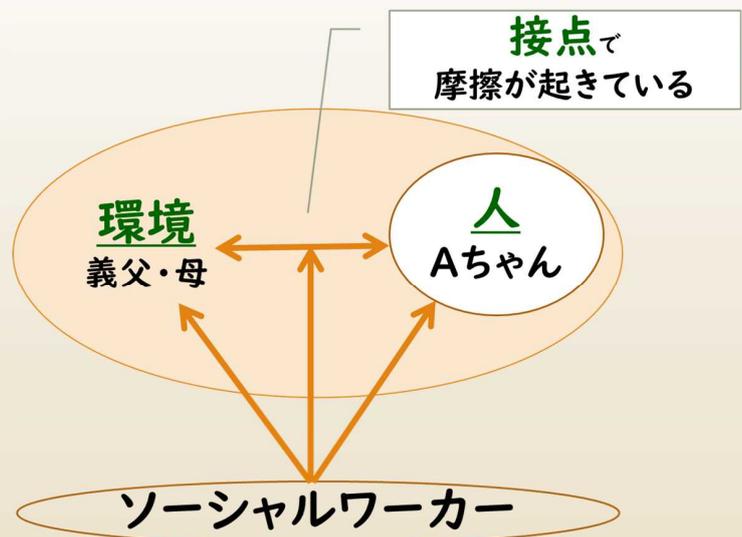
社会生活を営む中で、**解決困難な問題**を抱えることも・・・

Ex.虐待にあっている
Aちゃん

高齢になったり、障害を抱えたり・・・社会的な活動ができなくなることも

→これらの問題を解決するときの方法のひとつ

→問題の解決に向けて、「人」と「環境」、「その**接点**」に働きかける



ソーシャルワークの対象と方法

対象

自助努力では解決困難な課題を抱える個人、家族、グループ、コミュニティ

への

専門的支援活動

キーワード

ミクロ・メゾ・マクロ
時間軸と空間軸
個人や家族、グループ、コミュニティへの働きかけ

方法

- 面接技術（カウンセリング技法も）
- 適切な社会資源やサービスに**つなげる**
- よりよい社会資源やサービスを新たに作る
- 制度・政策の変革のための活動を行う



埼玉県社会福祉士会[※]の取り組み

※社会福祉士の国家資格を有する者で組織する職能団体

多文化共生ソーシャルワーク委員会

- 設立年：2006年
- 研修：1年に1回 1月頃
- 研究会：
 - **研究会**への参加：
どなたでも歓迎
 - 研究会：
偶数月第3木曜日18時半～
於福祉士会事務所
 - 活 動：ケース検討、相談対応、県内外国人支援組織・窓口とのネットワークキング
- **研究会**への参加：
どなたでも歓迎
- 研究会：
毎回15名強 **(増加・多様化)**
 - 独立型社会福祉士、自治体職員（福祉、国際）、住宅ソーシャルワーカー、ボランティア団体スタッフ、外国人住民当事者、行政書士、弁護士、高齢者施設職員、大学教員、大学院生、保育士、民生委員、など

目指したのは多様な人たちが
集まる・集まれる「場」づくり！



外国人住民とソーシャルワーカーとの出会い

出会いの場

- 行政
 - 障がい者相談窓口
 - 子ども家庭支援課
 - 福祉事務所
 - 児童相談所
 - 女性相談センター
- 教育機関
- 地域
 - 民生委員・児童委員として
 - 教会

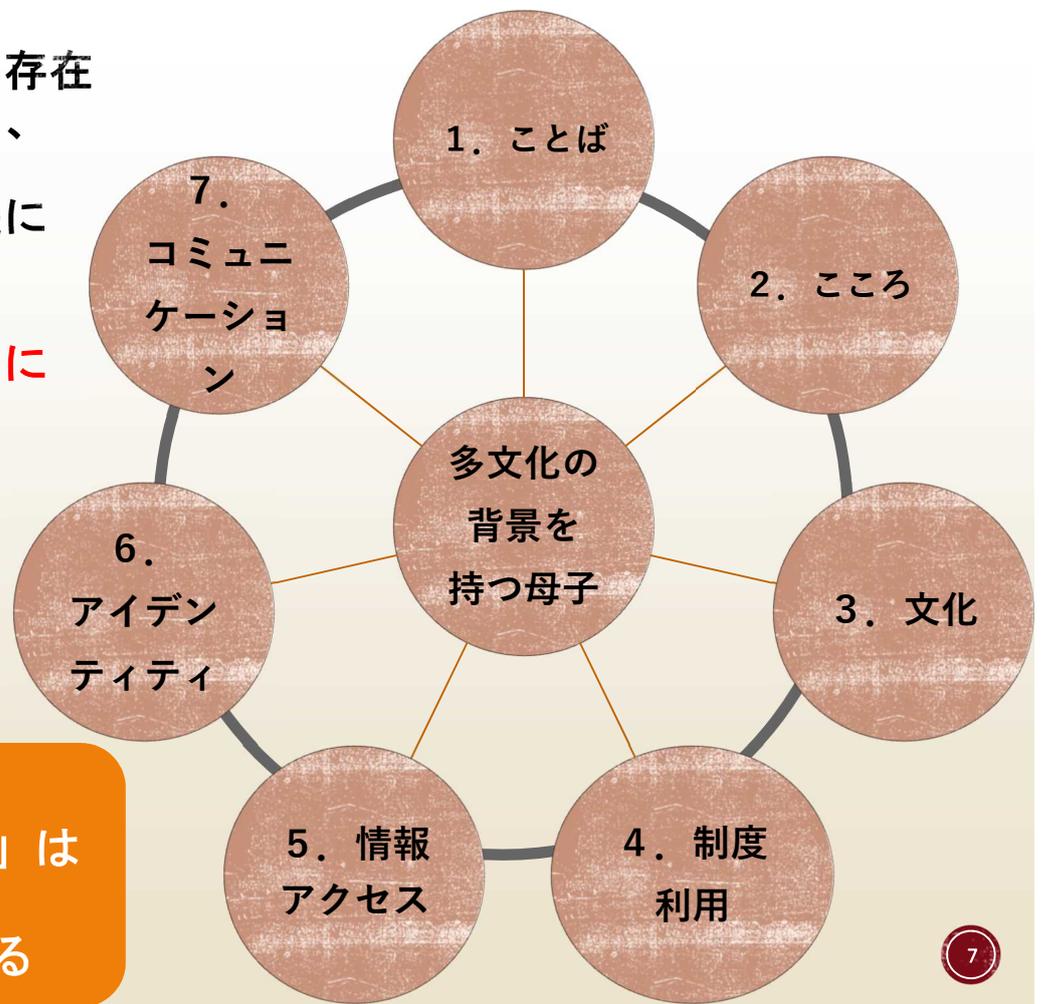
抱えていた生活課題

- DV被害
- 無戸籍の児童支援（行政サービスからの排除）
- 出産後の母子支援
- 教育現場から見た家族の孤立
- 多言語相談の現場での困難ケース
- 難民申請者（住まい、生活費）
- 精神疾患
- 障がい

外国人住民への生活支援には
多文化領域との多職種連携が必要！



様々な「壁」の存在
それらを理解し、
連携を通して
その解消・解決に
向けてともに
取り組む
—当事者もともに



なかでも
「ことばの壁」は
すべてに
関わってくる

7

日本語学習支援団体、生活支援団体等との相互協力・協働へ

■研修

- 多文化SWについて
- SWの視点から見た子ども支援について
- 地域福祉の視点から多文化共生を考える
- 福祉分野で必要なやさしい日本語
- 福祉領域の事例を使ったやさしい日本語・通訳研修

■相互支援・協力

- 学校ソーシャルワーカーと地域団体
- 社会福祉士会と国際交流協会

7

相互協力・協働を通して 一実感したこと

■ ボランティア組織・NPOは、外国人住民への生活支援の実践主体として大事な役割を担っている！

- ① 多様なプログラム、事業の展開
- ② 地域の社会資源への橋渡し
- ③ エンパワメントへ向けた支援
- ④ 地域のニーズへの応答
- ⑤ 制度化への働きかけ

ソーシャルワーク的な営みも多くみられる

など



日本語学習支援の場で毎週顔を合わせていくに従い、外国人住民は様々な相談ごとを打ち明けけるように

相談に

対応しない方針の団体	対応は各個人に委ねる団体	生活相談へと支援を広げた団体
自治体の多言語相談窓口、生活支援NPO、当事者グループなど、地域の様々な社会資源の紹介にとどまることが多かった	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別対応で行政窓口や病院への同行支援など、外国人支援に力を入れるようになったボランティアも ・ 相談者の抱え込み、共依存となるケースやバーンアウトも ・ 一団体、一個人での対応の限界から日本語ボランティア団体間のネットワークが作られ、共通の問題を議論するように 	継続的な活動展開と行政との協働を視野にNPO法人格を取得、市町村の多言語相談窓口受託、ニュースレター発行、DV母子のシェルター運営、当事者による外国語教室開催など様々な事業を展開するケースも

↓ 様々な活動の展開へ

医療通訳システムの検討 / 多文化の子どもの学習支援やキャンプ
多文化ソーシャルワークの検討 / 「やさしい日本語」での情報誌編集

多文化共生社会の実現に向けて — 「地域日本語教育」の課題と、 担いうる役割への視点

課題	担いうる役割への視点
「地域日本語教育」？ 共依存とバーンアウト 教育？支援？伴走？ 固定した関係性？	ともに暮らす住民・生活者であることからの出発 エンパワメント 対等性・双方向性 気づき（自己覚知） 架橋・ネットワーキング（インターフェイス装置） 日本語を通じた生活支援 ソーシャルネットワークを広げる 寄り添い・見守り 新たな仕組みづくりへの働きかけ（ソーシャルアクション）

社会的包摂へ

地域福祉の視点から

高齢化の進展と人口減の中での活力ある町づくりには
外国人を視野に入れた街づくり、福祉実践の志向が必要であり、
そのためには
地域日本語活動と地域福祉実践との協働が求められる
(妻鹿：2009)

日本語学習・生活支援団体の支援者は、
エスニック・コミュニティと地域コミュニティとの橋渡しをする
主体、
外国人住民とともに支えあい地域を創っていく
重要な人的資源として、今後も期待される
一方、
支援者（多くがボランティア）のみに過重な負担を負わせない
制度・政策的対応もまた必要（門2007）



それぞれの強みを活かしつつ、
誰もが暮らしやすい地域となるよう、
一緒に活動し、
地域でのつながりを広げ、
深めていきませんか？



参考文献・情報

- 門美由紀「6-18 日本語学習支援ボランティアとエスニック・コミュニティ」伊藤守他編『コミュニティ事典』春風社
- 牧里 每治(監修)、公益財団法人とよなか国際交流協会(編集)2019『外国人と共生する地域づくりー大阪・豊中の実践から』明石書店
- 妻鹿ふみ子2009「日本語ボランティアに求められる福祉的視座」日本福祉教育・ボランティア学習学会機関誌編集委員会編『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』14
- 移住者と連帯するネットワーク2019『外国人の医療・福祉・社会保障 相談ハンドブック』
- 日本社会福祉士会2019『滞日外国人支援基礎力習得のためのガイドブック』https://www.jacsw.or.jp/01_csw/07_josei/2018/files/tainichi/guide_A4.pdf
- 愛知県2010『多文化ソーシャルワーカーガイドブック』<http://www.pref.aichi.jp/0000038742.html>
- 地球っこクラブ2000などの取り組み <http://chikyukkoclub2000.com/>
- かながわ多文化ソーシャルワーク実践研究会「多文化ソーシャルワーク実践講座」(kanagawatabunkasocialwork@gmail.com) 2019年11月より開催(全5回)
- 他、各都道府県の社会福祉士会等で実施されている多文化ソーシャルワーク講座、設置されている多文化ソーシャルワーク委員会・研究会等